

(案)

令和 6 年度市民協働事業提案制度（市民提案型）について

1. 令和 6 年度提案事業

■市民提案型市民協働事業・・・1 件

事業名	応募団体名	担当部署名
外国人を支えるやさしいまち	NPO 法人こまえにほんごしえん・ 日本語スクール	政策室

2. プレゼンテーション及び審査会

■実施状況

日時：令和 6 年 7 月 20 日（土） 10 時～

会場：防災センター 4 階会議室

担当：狛江市市民参加と市民協働に関する審議会委員（4 名）

3. 審査方法・結果

■別紙審査票のとおり

審査にあたっては、下記のとおり設定する審査点（別紙審査票参照）による基準を基に、審議会において総合的に判断した。

【審査点による基準：①・②両方を満たすこと】

①評価点合計 30 点の 1/2 となる 15 点×審査員数以上

②重点ポイントについては、「寄与する」等 4 点の部分の部分を基準とし、12 点（4 点×3 審査項目）
×審査員数以上

【結果】

①評価点：103 点/120 点（基準点・60 点）

②重点ポイント：66 点/72 点（基準点・48 点）

4. 総括

今年度については、令和 5 年度に行政提案型市民協働事業、今年度は市民提案型市民協働事業を実施している団体からの提案があった。

提案事業は、日本語の支援を必要としている児童・生徒・保護者等を対象にした生活言語習得の支援等の継続事業に加え、行政及び関連団体との連携強化に向けた関連機関との連絡会議の設定ということで、地域課題の解決に寄与する事業であり、公益性が高く、市との協働により事業効果がさらに上がると考えられる。

関係部署との連携により外国人への効果的な支援につながることから、協働事業担当部署だけではなく、日本語が不得手な外国人の児童や保護者と関わりのある教育委員会等と連携することで事業の充実、拡大が期待できる。

市民協働提案事業 審査票

提案団体名	NPO法人こまえにほんごしえん・日本語スクール
提案事業名	外国人を支えるやさしいまち

◆事業について

①★**公益性**：提案事業は、地域社会の発展又は地域課題の解決に寄与するものであるか。また、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するものであるか。

1. 大変寄与する（6点） 2. 寄与する（4点） 3. あまり寄与しない（2点） 4. 全く寄与しない（0点）	A	B	C	D
<特記事項> ■とても重要な提案であり、今後外国人支援に関わっている機関が連携を取り合っていくためにも必要な提案もあり、評価できる。 ■粕江市に外国人関連部署（窓口）がないということで、学校の手続き等を手伝うことや、悩みなど相談できる窓口になっていることはとても大切だと思う。 ■日本語支援が必要な方の課題で、行政関係部署と市民が連携し協働することは、街の課題解決に必ずなっていく事業であり、多数の市民の利益となり得るものだと思う。 ■外国人児童生徒への課題解決には大いに寄与すると思われる。今後、保護者や外国人居住者も含めた支援展開を目指しており、地域課題の解決に寄与すると思われる。	《点数》			
	6	6	6	6

②**具体性**：事業内容や実施方法に具体性があり、市と団体の役割分担が明確かつ適正か。

1. 大変適正である（3点） 2. 適正である（2点） 3. あまり適正でない（1点） 4. 全く適正でない（0点）	A	B	C	D
<特記事項> ■継続してきた事業の報告を伺うと課題は多くあるように見受けられた。現在、政策室との協働で運営されているが、役割分担に関しては学校及び教育委員会も視野に入れていくことでより明確になっていくのではないかと考えられる。 ■まだ、判断に迷っている部分があるものの、その判断能力も含め、団体として育っていると感じる。協働として、行政に何をどこまで頼って良いか分からずに、遠慮している様子も見えるので、担当課からも担える部分を提案するところから協働として、共に進んでほしい。 ■課題解決に向けて「多文化共生、外国人に関わる関係者連絡会議の設置」と示しているが、どのように設置するか具体性に欠ける。	《点数》			
	3	2	3	1

③**実現性**：事業計画は妥当であり、ウィズコロナ、アフターコロナに対応するなど事業に実現性があるか。

1. 大変実現性がある（3点） 2. 実現性がある（2点） 3. あまり実現性がない（1点） 4. 全く実現性がない（0点）	A	B	C	D
<特記事項> ■継続事業に関しては、引き続き実践し2年目を迎えており、更に一歩進んで連携を視野に入れて活動しようという事であり、実現性がある。 ■文化の相違によるトラブルを事前に防ぐことに目を向けていることはとても大切だと思うので、是非実現してほしい。 ■小さな実現と大きな実現があり、本当に課題解決に進むためには、教育委員会が関わってくれるかどうかが大きく、それにより大きな実現と、しっかりと街の課題解決に進む。実現性はあるが、行政が教育委員会をしっかりと繋ぎ、稼働させることが必要と思われる。 ■継続事業については前年度の実績に基づいて計画しており無理なく実施できると思われる。関係者連絡会議の設置については市との協働により市の強みを十分に発揮することによって実現可能と思われる。	《点数》			
	3	2	3	3

④**効率性**：収支予算は妥当であり、事業に効率性があるか。

1. 大変効率性がある（3点） 2. 効率性がある（2点） 3. あまり効率性がない（1点） 4. 全く効率性がない（0点）	A	B	C	D
<特記事項> ■予算の立案の時点で、活動費は次年度に向けて継続可能な状況も考慮し、その上で協働していくための資金の在り方を考えておくことも必要である。市に対する予算のほとんどが講師謝礼であるが活動そのものの継続のための資金に関しては、あまり明確にされていない。 ■団体の会費費から毎年多少でも繰越金を作っておかないと、予定外の出費などが発生した際、対応できなくなるので、注意が必要である。 ■収支計画によれば、支出額に対して収入の約8割を市負担に頼っている。協働事業終了後も見据えた今後の安定した事業継続を図るには公開講座や勉強会を少額でも有料にするなど検討することが必要と思われる。	《点数》			
	2	2	2	2

◆団体について

①★協働性：団体と市が協働することによって、さらなる効果が期待できる事業であるか。また、それぞれの強みを活かし、対等な立場で実施できる事業であるか。

1. 大変期待できる（6点） 2. 期待できる（4点） 3. あまり期待できない（2点） 4. 全く期待できない（0点）	A	B	C	D
<特記事項> ■市が協働することにより、関係各部署間の連携と民間の様々な関係活動団体が連携できるようになることが期待されており、対等の立場で連携を取ることで、民間団体と各部署のそれぞれの課題の共有と役割が明確になることが期待される。 ■教育委員会の公的サポートに関して見直しができると思う。 ■行政だけではできない事業であり、市民が実働することでの市民の利益は大きく、大変期待できる。 ■外国人児童生徒支援については団体の役割を發揮している。今後の課題である行政各分野との連携「連絡会議の設置」については正に政策室の強みを活かして協働を検討することにより、対等な立場で実施できると思われる。	《点数》			
	6	6	4	6

②実施能力：提案団体は、提案事業を実施する能力を持つか。

1. 大いに持つ（3点） 2. 持つ（2点） 3. あまり持たない（1点） 4. 全く持たない（0点）	A	B	C	D
<特記事項> ■様々な年齢の会員がいることによって、子どもから保護者まで、サポートできる体制はできている。しかしながら、常時活動できるメンバーとなると限定的である状況も伺えた。また、スキルアップ（語学力だけでなく支援者としての役割の理解やサポートに関する基本的な技術の向上等々）が必要な段階で、更なる法人内での充実が望まれる。 ■地域でつながりをつくっていくことも活動として実施している。（日本語指導・イベント実施他） ■1年前に計画していた法人化もしっかりと行っており、団体の成長も感じる。 ■今後に向けて提案団体の能力で足りない分野を精査し、市との協働を十分に活かしてほしい。	《点数》			
	3	2	2	2

③★発展性：事業内容は、現状の団体の活動内容から発展性が見られるか。また、提案事業を実施することにより、団体の活動に発展が期待できるか。

1. 大変期待できる（6点） 2. 期待できる（4点） 3. あまり期待できない（2点） 4. 全く期待できない（0点）	A	B	C	D
<特記事項> ■多様な人々が暮らしやすいまちづくりという事に関して団体は意識を高く持っており、今後も期待できる。こまかくの支援と政策室との協働の下、3年でNPO法人を立ち上げて会員も増やしてきており、実行力は評価できる。継続事業のほか広く連携を持つとする姿勢は評価できる。 ■国際交流という意味合いでも、有力な人材を育てていくという視点にもとても期待する。 ■また、若い団体なため、来年度、行政と連携した実績を作ることにより、さらに成長するのではないかと考える。団体が成長することで、活動にも発展が期待できる。 ■現状の活動内容は外国人児童生徒支援が中心であるが、その更なる充実と保護者の支援も必要と考えており、「連絡会議の設置」は必須であると思われる。それらの実践を通じて提案団体自体の底上げが期待される。	《点数》			
	6	6	4	4

評価点計（30点満点/個人） **29点 26点 24点 24点**

うち重点ポイント合計（18点満点/個人） **18点 18点 14点 16点**

【審査結果】採択することが望ましい
 本事業は、日本語の支援を必要としている外国人への支援という点で、外国人を含めた多様な人々が暮らしやすいまちづくりという地域課題の解決に寄与する事業であり、継続事業に加え、行政及び関連団体との連携強化に向けた関連機関との連絡会議の設定については、市との協働により事業効果が更に上がると考えられる。連携先を幅広く捉え、教育委員会等と連携した事業の展開を期待する。また、今後担当課と調整し、役割分担、事業の具体性等検討していただきたい。
 提案団体については、外国人児童、生徒への支援の実施等計画的に事業を展開しており、団体としても成長している点は評価できる。一方で、常時活動できるメンバーの充実やスキルアップ等法人内での充実が望まれ、協働事業終了後も見据え、今後の安定した事業継続が図れるよう収支の検討が必要と考える。

評価点 **103点 / 120点**
 ※基準点 60点

うち重点ポイント **66点 / 72点**
 ※基準点：48点

【審査点による基準：①・②両方を満たすこと】
 ①評価点合計30点の1/2となる15点×審査員数以上（R6：60点）
 ②重点ポイントについては、「寄与する」等4点の部分で基準とし、12点（4点×3審査項目）×審査員数以上
 R6の基準点=48点

市民協働提案事業 審査票

★特記事項

■外国籍の方々への日本語支援はとても有意義な活動であり、今後も体制を充実させて活動を継続させ、より充実させていただきたい。また、市の中に様々な支援があるものの、それぞれの活動であり、連携をとろうというところに着目して協働の視点を据えたのも納得できる。

■外国人が日本で生活する上で最大のハードルは日本語習得であると推察される。外国人居住者が増えているなか、提案団体の活動は重要である。現在の活動が定着すれば、児童生徒の周辺のニーズの掘り起こしにも繋がる。市と団体の協働事業の充実拡大を期待している。

★指摘すること・注意点・課題等

■外国の方々への支援は、幅広い。子ども（就学前から学齢期）と保護者だけではなく、多世代にまたがる。また、教育の現場と生活全般への支援と両側面がある。そのためにも様々な支援を担っている部署・民間団体・個人サポーターなどが顔の見える関係を作っていくことはとても大事である。今回の連携のための連絡会という提案は有効である。しかし、一NPO法人の呼びかけにどの位多くの団体や教育機関が参加してくれるのか疑問でもあり、弱さを感じる。だからこそ、市との協働事業とすることで、まず、市の各部署から参加してもらうことが出来るし、教育委員会をはじめ学校等の教育機関を巻き込むことに一役買ってもらう事もできやすい。

今後、外国籍の方々が無事生活していくために、教育・福祉、様々な民間（就労問題等も考えると企業を巻き込むことも考えたい）が連携し、その上で分担していくことが必要である。市の強力なバックアップは欠かせない。一法人の域を超えて民間各団体がその独自性を活かして様々な活動をし、お互いに情報交換して分担を担っていくことが必要と考えている。市行政の中に外国籍の方々のための総合相談窓口があり、そこで教育関係及び各部署との連携が図られることも今後必要であり、そのような組織作りの足掛かりとなることも望みたい。

■行政が苦手とする横の連携を未長く構築していくことが、この事業の難題となるのではないかとされる。今回の協働事業で、担当課の努力でその形を構築し、街の良い未来を作っていく欲しい。

■連絡会議は教育委員会に、政策室から声を掛けてもらうと良いと思う。

■多文化共生とは言え、具体的な条例等に基づいたとしても複数の行政各部署を召集して「連絡会議の設置」を行う事は難しい。まして民間のNPO団体の呼びかけではさらに困難と思う。しかし、提案団体も指摘しているとおり当該事業の発展は他の関係部署との連携が必須である。連絡会議の設置に向けて提案団体と市が双方の強みを活かした役割分担の協議が必要と思われる。